

日本ボストン会 会報

第45号



ハイキングの会
(尾瀬のワタスゲ)



ボストン日本人会50周年、及び外務大臣賞を受賞して 中塚 久生 (ボストン日本人会会長)

ボストン日本人会は、今年平成27年、2015年にて、創設50周年の節目を迎えました。1965年に「ボストン日本人会」という名称、及び現在のような体制としたとの記録に基いて、先日6月21日に「50周年記念誌」の発刊、及び記念式典祝賀会を開催しました。

日本人会の「会報」を中心に、歴史編纂を進めるにしたいが、諸記事からの解釈によっては、ゆうに50年を超える歴史がある、ということも判ってまいりました。

現在、日本ボストン会が保管されている記録ノートの調査に依り、もっと歴史を辿って行きますと1908年の「日本人学生会（留学生の会）」という全米を対象とした会がボストンに設置されております。この日本学生会は戦後、ボストン日本人会へ発展解消したと伝えられております。

ともあれ「半世紀」を振り返るとき、先輩諸氏、会員の皆様の積み重ねてきた長い年月に改めて敬意を表する次第です。

日本人会会長は1965年初代会長は故堀内實氏から、私で14代目となります。また、その間には1975年にボストン日本語学校を創設。初代校長は増淵興一氏。現在の横山 勝寿校長で14代目となります。



また、1980年に在ボストン日本国総領事館が設置され、初代総領事として井口武生氏が赴任されております。現在の姫野 勉総領事が16代総領事となります。

今般、50周年を機に外務大臣賞を拝受し、長年に亘り、ボストン日本人会を支えて来られた諸先輩方々、会員の皆様、

関係各団体のご尽力の賜と深く感謝申し上げます。同時にこれからも日系コミュニティーの活性化に一層努力せよとの激励とも受け止め、心新たに務めて参る所存です。



Edwin O. Reischauer
Memorial House



中塚会長

ボストン日本人会の歴史の重さに思いを馳せるとともに、「人」から「人」への伝承の一端を担い、次世代へ継続させていくことを願って、50周年のご挨拶と受賞の心からのお礼とさせていただきます。

歴代会長、役員、会員の方々に日本へ帰国された多くの方は日本ボストン会会員になられていると思います。今後とも皆様のご指導、ご協力を賜りたく、宜しくお願ひ申し上げます。

HBS日本リサーチセンターの活動について

佐藤信雄（日本ボストン会会長）

私は35年前に当時勤務していた日本興業銀行で社費の留学生試験に受かりハーバード・ビジネス・スクール（HBS）に留学をしたことからボストンとの縁が出来たのですが、不思議なことに6年前から留学先だったそのHBSで仕事をしており、日本とボストンの絆を強めることに関与することとなっております。そこで大変恐縮でございますが、この会報で今私が所属しておりますHBS日本リサーチセンターの活動について少しご紹介をさせていただきたいと存じます。

HBSは100年以上前の1908年に創設されたビジネス・スクールですが、本格的にグローバル化を始めたのは僅か19年前の1996年からです。この年に当時の学長であるProfessor Kim Clarkが、HBSの教員が行うリサーチと教材として使うケースの中身をよりグローバルなものとするために、Global Initiativというプロジェクトを立ち上げました。世界の経済と企業経営のグローバル化が進む中でHBSが行っているアカデミックなリサーチと教材のケースがあまりにもUS centric過ぎるとの危機感から、このプロジェクトを立ち上げたと聞いております。具体的には世界の主要な地域に徐々にリサーチセンターを作り、担当する地域に関して教授

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

総会

日時: 2014年11月20日(金)
午後6時~

場所: NEC三田クラブ

会費: ¥6,000 (同伴者
¥5,000) (前納の場合)
本人同伴者共 ¥5,000

振込先: みずほ銀行

浜松町支店
日本ボストン会
普通口座: 1578981

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)

ゴルフの会

日時: 11月19日(木)

午前8:30インスタート

場所: 川崎国際生田緑地
ゴルフ場

会費: 4000円(賞品代及び
パーティー代)

集合: 8時20分 10番テイク

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)

紅葉狩りの会

日時: 2015年10月26日(月)~
28日(水)

内容: 十和田・八幡平国立公園
園及び田沢湖・角館武
家屋敷(小型バスで回
ります)

宿泊: 星野リゾート奥入瀬
溪流ホテルと十和田
大湯温泉ホテル鹿角

費用: 2泊3日で¥50,000程度

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [✉](#)



陣を色々とサポートすることで教授陣の海外でのリサーチ活動とケース作成をやり易くしようという目的でした。このGlobal Initiativeの元で徐々に地域担当のリサーチセンターが創設され現在米国以外

の8か所(東京、香港、上海、ムンバイ、イスタンブール、パリ、ブエノスアイレス、サンパウロ)に拠点を持っております。尚東京の日本リサーチセンターは2002年に創立され、私は2代目のセンター長として2009年から着任しております。

具体的な活動はリサーチであれば、教授が関心を持っているリサーチのテーマに即してインタビューすべき日本の学者や経営者さらに業界の関係者や官僚を見つけ出してインタビューをセットアップすることから始まります。そしてインタビューに同席をして通訳をしたり、インタビューの内容を文章に起こすことも行います。また資料を集めて必要な部分を英訳することも必要です。

最近の例では米国・フランス・インド・中国・日本における食生活がどのように変化してきたかの比較研究を手伝いました。その



の飲食店やコンビニストアさらに家庭において食材を保存したり食事を作るときに使う家電のメーカーまで)がどのように戦後変化してきたのか、そしてそれらの変化が食生活にどのような変化をもたらしてきたのかのリサーチのお手伝いをしました。その為に国立健康・栄養研究所にお邪魔をして日本人の食生活がどのように変化してきたかをマクロのデータで教えてもらったり、1962年に創立されたベターホーム協会が50年以上提供し続けているお

料理教室の内容が、主婦や独身女性の生き方や生活習慣の変化を受けてこの50年間どのように変化して来たかを現場の目線で教えてもらったり、食料品の商品開発で目覚ましいコンビニストアの商品開発の責任者の方に消費者の食の嗜好の変化を具体的に教えていただいたりしましたが、これらはすべて教授のリサーチの関心に沿って日本リサーチセンターがアイデアを考えアレンジをしたものです。

一方ケースについては、教授陣はグローバルに展開する大企業以外日本企業に関して知る機会が中々ない事から、残念ながら教授の方からケースの対象としてある特定の日本企業を指名して来ることは滅多に有りません。従い私が年4回ボストンに出張をした際に色々な教授と会って彼らのケース作成のニーズを聞き、そのニーズに沿った日本企業を考えたり探したりして教授に紹介をします。幸い教授がその企業に興味を持てば、その会社にアプローチをしてHBSのことやケースとは何かを説明して、企業からケースの対象となることの了解を得るようにします。企業から了解を得られた場合、その会社の誰をインタビューすべきかを教授と企業と相談をした上でインタビューのセットアップをします。インタビューは教授が行いますので、私共は同席をして必要に応じて通訳をします。またリサーチ同様業界や会社の資料を集めて必要に応じて教授の為に英訳をします。また、教授の要請に応じて私共がケースのドラフトを作成することも多いです。作

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

伝統芸能の会

日程: 2016年3月6日(日)

内容: 国立劇場で新派公演

観劇

(詳細未定)

申込・問合せ: [E](#)

音楽の会

今後の活動については未定ですが、何かご提案や、推薦する演奏者がありましたら、お知らせください。

申込・問合せ: [E](#)

成したドラフトを企業に見てもらい、コンフィデンシャルなことが書かれていないか、発言の引用が適切か等をチェックしてもらい、要請があればドラフトの中身を一部削除したり修正を加えて最終版を再度会社に見てもらい、そのケースを一般公開することに同意をいただくようにします。

最近の例では昨年ある教授から、世の中には皆がやりたい仕事ばかりではなく3K(きつい、汚い、危険)の仕事も多くそれら3Kの仕事に従事している人たちの働き方が大きく変わったケースを書きたいとのニーズを聞きました。そこでJR東の子会社でテッセイという新幹線のお掃除専門の会社が、矢部さんという方がJR東から天下りで来てから大きく変わったことを思い出し、全く面識がない矢部さんに電話をかけアポを取りお話を詳しく聞きそのメモを教授に見てもらった所、幸い教授が興味を持ってくれました。このケースはほぼ完成して年末までに公開される予定ですが、3Kと言われる仕事でもリーダーシップの有り方如何で誇りを持てる職場に変わることが可能な事、そしてどのようなフレームワークで変えることが出来るかを学ぶことが出来る大変素晴らしい教材となったと思います。



尚私共HBSのケースは、HBSのみならず世界中のビジネス・スクールや企業の研修で使われており、年間千二百万コピーのケースが購入され使われております。また年間300本以上の新しいケースが作成されております。

このように、私共の第一のミッションであるリサーチとケース作成の仕事は、“待ち”の仕事では駄目で積極的に能動的に教授陣に働きかけて初めて上手く行くもので、学校の仕事ではありますが所謂事業会社の仕事と共通している側面だと思えます。

以上のように教授陣が行うリサーチ活動とケース作成を教授陣に代わって現地の“目と耳”となり動くことが第一のミッションですが、第二のミッションとしてそれ以外にHBSにとってプラスになることは何でもやることとなっております。例えば、日本からの留学生が大きく減ってしまったMBAのプログラムに一人でも多くの日本人がアプライしてもらうように私共のMBAプログラムの特色についていろいろな場でお話をするようにしております。また、HBSは企業幹部向けのプログラム(Executive Education Program : EEP)を80本以上持ち、年間1万人前後の企業幹部が世界の多様な国々から参加をして学んでおりますが、シンガポール在住のマーケティング担当者と一緒に日本企業を回り私共のEEPをプロモートしております。あるいはリーダーシップ教育という観点からHBSの教育はどのような特徴があるかを色々なセミナーで話したりしております。また、教授が訪日する際に、メディアとのインタビューをアレンジしたりもします。私共のMBAやEEPに少しでも多くの日本人に参加してもらうことや日本においてHBSのことを知ってもらうことはHBSにとって有益なことです。一方で日本からの参加者が増えることでHBSにおいて日本の存在感が上がることは日本にとっても重要なことと考えております。



そしてHBSの教授に日本の経済や企業をリサーチやケースの対象としてもらうことは、世界中の色々な方に日本のことを知ってもらう良い機会を作ることに繋がると思っております。

このように日本リサーチセンターでの活動を通じて、HBSや世界の中で小さくなっている日本の存在感を上げることに貢献をして、その結果日本とボストンの絆を少しでも強めることが出来れば幸いです。ですので、引き続き宜しくお願い致します。

墨象が繋いだボストン仲間 吉田礼子

今年の六月に Boston Haiku Society 会員の Raffael de Gruttala 氏から上梓されたばかりの VOICE OF THE CICADE と題した English Haiku (英文俳句) の本が届いた。実は差し上げていた私の墨象作品を出版準備中の本のカバーに使用したいとのメールを以前いただいたことがあって嬉しき旨を伝えていたので完成を心待ちにしていた。Raffael さんはケンブリッジのお生まれで Haiku(俳句)、Haiga(俳画)、Renka(連歌) の造詣が深く、Boston Haiku Society の創設者の一人である。そして全米規模の同種組織でも主導的な役を務めておられる。

届いた本を手にして Raffael さんと初めてお会いした日をなつかしく思い起した。それは2008年に Boston 近郊の Duxbury にある Art Complex



Museum (ACM) で開かれた企画展 HAIGA(俳画) の会場であった。たまたまお目にかかった Raffael さんから私の作品についてお褒めの言葉をいただいた、また墨や和紙の話をした。英語力の乏しい私だがメイン州在住の友人の通訳の助けを借りて俳句や日本文学についての Raffael さんの深い理解に共感できた。

写真は ACM で行った揮毫のスナップ写真である。帰国してから芭蕉の『奥の細道』の平泉での句「夏草や兵どもが夢の跡」をイメージした作品お届けした。日本語と英語と



言う言葉の違いがあっても俳句や俳文の

味わいの精神は同じではないかと感じた。

ACM の企画展に私の作品が選ばれるきっかけを作ってくれたのは2004年度のフルブライト基金で米国から来日された女性教師 Pam さんである。このとき私の住む奈良県大和郡山市が研修の一つの場となり20名を一週間受け入れた。その中の一日は市民の家に泊まって日本の暮らしを体験してもらおうと市民に呼びかけ、我が家へも来てもらったのがボストン近郊に住む Pam さんとの交流の始まりだった。

それ以来現在までずっと交流が続くとはその時は予想もしていなかった。そして、その後友人とボストンへ旅をした時に、ご好意で Pam さんの自宅に宿泊したが、それ以上に思いがけないことは彼女の学校で子供たちに筆墨に触れる楽しみを知ってもらう機会を用意してくれたことだった。この写真がその時の様子である。



ACM での企画展など予想もしていないことをさせてもらったのも墨や和紙の素晴らしい文化があればこそであり、これからも腐心していきたい。

振り返ってみると約20年前に日本の古建築の研究で来日した MIT の学生が筆墨の親しみに我が家へ立ち寄り墨や和紙に触れて楽しんでくれました。それがボストンと私のご縁の始まりだったのかもわかりません。

山口静一先生を通して日本ボストン会に入会し、皆さまとの出会いが始まりました。擲筆に当たり、この原稿の作成に当たりお世話いただいた三好彰会員に感謝いたします。

ワーキンググループ活動報告

ハイキングの会 尾瀬のワタスゲを訪ねて 中埜岩男

詳細報告

6月28日7時前JR関東高速バスターミナル待合室にて皆さんと合流。Hannahさんを紹介。参加者は、土居夫妻、小野田夫妻、幸野さん、Hannah Jonasさんと中埜夫妻の8人。

尾瀬3号に乗車。幸野さんと同席。7:20発車。10:40戸倉着。臨時便にて鳩待峠に移動。弱い雨模様。休憩所にて雨具の身支度。11:44鳩待峠を出発、なだらかな下り坂をゆつくりと進んだ。雪渓を残した至仏山を見ながら1時間強歩いて、山ノ鼻に到着、昼食。13:39山ノ鼻発。植物研究見本園に寄ってから尾瀬ヶ原の木道を進む。牛首あたりから雨で萎んだワタスゲの群生が見えてきた。湿原は花盛り。水芭蕉も所々で見られた。尾瀬ヶ原三叉で小休止。更に、雨降りの中、カキツバタが群生する下の大堀川を通り、8の字型の木道沿いに竜宮を見て竜宮小屋でトイレ休憩。あと一息。燧岳が時々顔を見せた。4時半に尾瀬小屋に着いた。途中、幸野さんが木道で足を滑らせて左手首を痛めた。

尾瀬小屋ではガイドンスを受けた後、すぐに入浴。湯船は小さく、石鹸・シャンプー不可で沈むだけ。しかし、熱い風呂で汗を流してすっきり。食事は良かった。ご飯とみそ汁はお代わり自由。きのこ入り。最初にビール

で乾杯。9時前に就寝。夜中、雨音が激しく心配した。

6月29日6時前に食堂に降りて朝食。食後、三条の滝行きの希望を取り、三条の滝組（土居夫妻、幸野さん、Hannahさんと中埜）と段吉新道組（小野田夫妻と家内）に分かれた。

7時前に小屋の前にて記念撮影。天気がかんたん良くなってきた。

7時5分に尾瀬小屋出発。東電小屋分岐で尾瀬ヶ原とお別れ。

赤田代の温泉小屋で、最後のトイレ休憩。段吉新道分岐で二手に分かれた。段吉新道組の先導は家内。三条の滝組の先導は

自分。幸野さんは昨日痛めた左手首の処置をしての歩行。少し下って平滑ノ滝展望台。大きな岩に上ると、眼下に滑らかな川の流が見えた。更に下って、三条の滝分岐でリュックを置いた。身軽になって三条の滝展望台まで下った。展望台から見る三条の滝は水量豊富で迫力があつた。分岐点に戻って、リュックを背負って出発。兎田代を通り、段吉新道合流点を過ぎた所で段吉新道組三人と合流できた。新しくなった裏燧橋を渡った。渋沢温泉小屋分岐を過ぎると、西田代、横田代、ノメリ田代の各湿原を楽しみながら、予定よ



ワーキンググループ活動報告

活動年表

2015年（平成27年）

4月4日

お花見の会（墨田公園）

4月23日

春季ゴルフコンペ（川崎国際生田緑地ゴルフ場）

5月13日

美術と歴史の会「ダブルインパクト展」鑑賞
（東京芸術大学美術館）

5月31日

音楽の会春季ホームコンサート（第10回）開催

6月28/29日

ハイキングと山の会 尾瀬ヶ原ハイキング

りも1時間遅れで上田代に着いた。上田代は傾斜湿原で、山々の展望も良かった。ワタスゲも生き生きとしていた。2個800円のおにぎりで昼食と休憩。一人先行し、姫田代と御池田代を通過して御池着。御池で待つ



夢の湯の主人を安心させた。続いて1時半過ぎに全員御池に着いた。御池から夢の湯まで送迎バスで楽ちん。3時頃夢の湯に着いた。温泉に入り汗を流してすっきり。懇親会は、山菜の天ぷら+漬物+瓶ビール。手打ちのざるうどんも美味かった。先に駅に行き乗車券を購入。後続の到着が遅いので心配したが、駅員さんが電車を停めてくれたので間に合った。4分遅れで電車は出発。野岩鉄道様々。鬼怒川温泉にて特急に乗り換えた。約2時間、8人が二列に向き合って座り、時間を忘れて談笑。19:15に浅草に着いた。改札口で解散。終わってみれば、思い出一杯の尾瀬ハイキングでした。

一繕乃会

「福島青年管弦楽団」

東京デビュー・コンサート

水野賀弥乃

2015年4月初旬に、ボストン・ジャパン・ソサエティ前会長のPeter Grilli氏より、ロンドン在住のギリシャ人ピアニストのPanos Karan氏の日本での活動について、東京で支援してくれないかとの依頼があった。「ボランティアですが・・・」とのこと。Karan氏は、2011年8月より年に2回来日し、福島の中学生、高校生の音楽指導をしている。その子供たちによる「福島青年管弦楽団」の東京デビューを叶えたいとのことである。震災によって引き起こされた放射能汚染によって、今までの家族生活、学校生活の変化を余儀なくされた福島の子供たち。その中でも音楽を続け

た子供たちが自らの演奏を披露することによって、観客の喜びを直に体験する感動が、子供たち自身に人生を切り拓く勇気と自信を生み出す、それこそが音楽の力であるとの信念のもとにKaran氏はこの活動を続けている。

まず、8月3日サントリーホールのブルーローズにて、Panos Karan氏とZach Tarpagos氏のピアノとフルートのコンサートを開催した。これは、8月20日の子供たちのコンサートのための資金集めのコンサートである。200名ほどのお客様にお越しいただき、「アットホームな素晴らしいコンサートでした。20日も伺います！」と口々にご好評をいただき、とりあえず、ほっと胸を撫でおろした。

次は8月20日のいよいよ本番であるオペラシティ コンサートホールでの「福島青年管弦楽団」の東京デビューコンサートである。54名の福島の7校の中学生、高校生がグリンカ、モーツァルト、シベリウス、そしてラフマニノフを演奏する。日本フィルハーモニー交響楽団、桐朋学園大学、日本チェロ協会の方々の無償の演奏協力を得て、8月4日から18日まで福島で強化練習を行い、その成果を20日に披露するのである。海外招聘の音楽家4名もKaran氏とTarpagos氏に加わって子供たちを指導した。そして、指揮は本名徹次氏、バイオリニストの大谷泰子氏、司会に友情の架け橋音楽国際親善協会理事長の三村京子氏のご協力を戴いた。

東京での支援チームの私達一私と同じくPeter Grilli氏に支援を依頼されたアークヒルズクラブの専務理事、給田英哉氏と私一は、8月3日のコンサートの後からが猛烈な忙しさとなった。1,600名収容のオペラシティを聴衆で埋めるべく、チラシ配布はもとより、チケット販売、座席調整、そして、真に光栄なことに皇后陛下のお出ましが8月初旬に決定し、宮内庁ご担当者との打ち合わせや書類作成等、あれよあれよという間に、家では母と口を利く間もなく、朝もお昼もカステラとミルクを母に提供するという始末。身体が幾つ

あっても足りない状況になってしまった。あれやら、これやら、気が付けば竜巻のごとき、あるいは大波に飲み込まれたような怒涛の日々がコンサート当日まで続いた。

見るに見かねた日本フィルの山岸淳子氏、武蔵野音楽大学の八反田弘氏、オペラシティの後藤貴志子氏等のプロフェッショナルの方々が、このイベントに「よっしゃ！」と動いてくださった。座席とチケットの調整、記者会見の手配、皇后様をお迎えするにあたってのアドバイス等を誠にご親切にお力を尽くしてくださった。それもこれも給田氏の音楽のご人脈の御陰様であり、またチケット販売もほとんどが給田氏のご尽力によるものであった。公演3週間前には、78枚しか売れていなかったチケットが、公演間際には、足りなくなってしまうほどの状態となった。この皆様方（ドリーム・チームと命名）そして多くの方々が手を差し伸べてくださった。そしてこの公演の主旨をご理解いただいた方々がチケット購入にご協力くださったことは、真にありがたいことであった。

公演当日、お昼過ぎからステージでは子供たちが本名氏の指揮のもとリハーサルを熱心に行っていた。このリハーサルのちょっとした時間でも彼等が上達しているところを目の当たりにする。給田氏の音楽のお仲間、私の同窓生、友人、親戚、家族が受付を固め、お客様をお迎えする準備を整えた。公演15分前にNHKの取材が入ることとなり、宮内庁の方を探しにホール中を走り回る。Grilli氏もボストンから駆けつけた。日本ボストン会の前会長、長島雅則様御夫妻、関直彦様御夫妻、棚橋征一様、島田充子様にもお運び頂いた。多くのお客様をお迎えし、当日券が足りなくなり、当初封鎖していた3階バルコニー席も開放することになった。コンサートは順調に進行し、休憩にはいる。皇后様のおでましに伴い、宮内庁記者会の方々を迎える。後半のラフマニノフ、ピアノ協奏曲第2番ハ長調作品18そしてアンコール。拍手、拍手、拍手……。ホー

ルの扉から退場されるお客様の笑顔それぞれに子供たちの東京デビューの大成功を実感した。私はハワイエに設置した募金箱の横に偶々立っていたが、お客様が募金箱に押し寄せて次から次と寄付をしてくださった。まるでジェームズ・スチュアート主演の往年の映画「素晴らしき哉、人生！」のラストシーンの中にいるようであった。私の友人達は、子供たちの演奏の高度なこと、そして皇后さまが会場を一つにしてくださったことを、異口同音に私に伝えてくれた。

Panos Karan氏の福島の子供たちへの温かな思いから始まった活動は、これからも続くことであろう。この夏のオペラシティでの公演によって、福島の子供たちが音楽的にも人間としてもより大きく成長したことは間違えないであろう。生きることの自信と勇気を音楽を通して得、コンサートにかかわった多くの人々、そしてお客様の存在に包まれて、この奇跡的なコンサートが行われたことが、彼らの人生を歩む後押しとなることを願ってやまない。そして、これからも多くの方々がその後押しをつないでくださいますように。

観桜会 侯野善彦

4月4日、集合場所の地下鉄・銀座線の浅草駅前、水上バス乗り場前に

午後3時半、ボストン会の旗を持って立っている幹事の生田さんを目ざして集合しました。

参加を予定された11人が揃ったところで出発、台東区側の隅田川土手沿いに吾妻橋から墨田公園の桜の下で青いシートの上で宴会を楽しむ花見客の脇を、川越しに東京スカイツリーを眺め、小野田さんが参加者の記念写真を撮り、葉桜になりかけた花の下を1キロ余歩いたところが公園の端になり、隅田川花火大会(第一会場)の花火打ち上げ台が設けられるあたりになりました。

そこを過ぎて桜橋に達し、橋を渡り墨田区側の土手の上でも桜を愛でる人々の脇を、吾妻橋脇のアサヒビールを目指し、雨が気になる空を見ながらの散策でした。往復約3キロ、会場のアサヒビール・アネックス3階の宴会場「ハーモニック」には4時半過ぎに到着しました。

宴会場は我々の人数が少ないので、他の20人のグループとシェアする形になりました。会場には篠崎さんが5時過ぎに到着、美味しいイタリー料理、飲み放題のワイン・リストにはアサヒビール自慢のスーパードライから、スタウト、香味豊かな地ビール（隅田川ブルーイングのヴァイツエンビール）、ワイン、焼酎などが提示され、各自好みの飲み物を何種類も楽しみながら2時間じつくりと飲み、歓談の時を過ごしました。

幹事の生田さん、小野田さん、鶴さんご夫妻のご配慮に感謝をいたします。

ゴルフ春季懇親会

山崎恒

ボストン会ゴルフ春季懇親会は、素晴らしい天候に恵まれた4月23日（木）に、川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催されました。

初参加の方も含めて、8名が参加しました。

サクラの花には、少々遅かったものの、春の陽気を堪能することが出来ました。

菊池 徹さんが、素晴らしい成績で、優勝を飾られ、佐々木杯に名前を刻す事になりました。

次回は、11月に開催の予定です。

第10回ホームコンサート

関直彦・尚子

2015年5月31日（日）の午後、雨天という前日までの天気予報は見事に外れて、快適な

天気に恵まれたのは、天からのご褒美か。出席者は演奏者を除き42名と盛況で、座席を並べるスペースに余裕が殆どないほど。

今回は、ボストンを中心に世界で活躍している実力派ピアニスト、関野友記子さんをお招きしての演奏会。ハイドン、ベートーヴェン、スクリャービン、ラヴェル、ショ



パンの作品の迫力に満ちた見事な演奏に一同、大いに魅了されました。関野嬢のプロフィールと演奏活動については、彼女のホームページ <http://yukikosekino.com/> をご覧ください。

演奏の後は、恒例の懇親会。当会のボストン在住会員でもある友記子さんのご両親も出席され、多くの会員と旧交を温めていました。また新たに会員に加わったMr. Tom Clarkご一家4人も加わって、料理や飲み物を手に、賑やかに歓談を楽しんでいただきました。GEに勤めているClark氏は、残念なことに急遽7月にロンドンに転勤となりましたが、当会には留まります。8年後に定年退職して、日本で永住するとのことでした。

美術と歴史の会

ダブルインパクト展の鑑賞

三好彰

ボストン美術館と東京芸術大学が共催した「ダブルインパクト展」を美術と歴史の会で5月に見学した。ホームページに見学記を掲載しているのをご覧ください。

詳細報告



日本ボストン会事務局 

〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせた頂きたい、事務局までご連絡ください。連絡先：